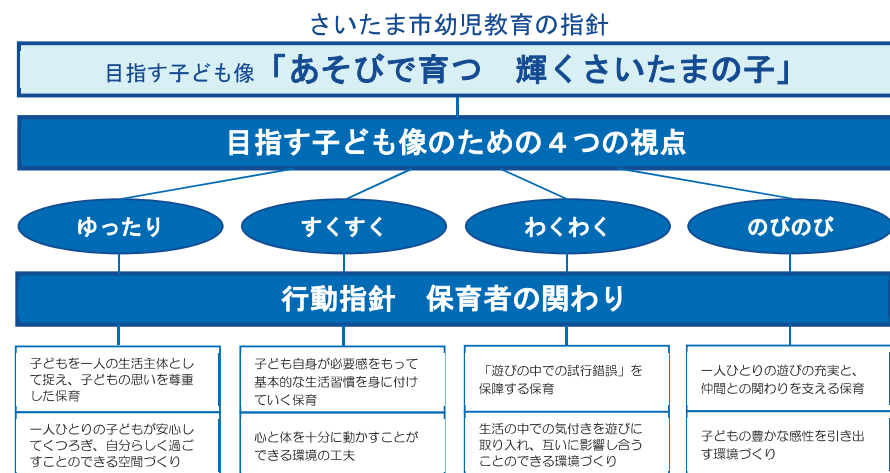


◆「さいたま市幼児教育の指針」4つの視点◆

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が、平成29年3月告示、平成30年4月に施行されたことを受け、令和2年3月に「さいたま市幼児教育の指針」を策定しました。さいたま市には、就学前の子どもが通う施設が750近くあり、園種や規模も様々です。各施設がそれぞれ特色を発揮し、就学前の全ての子どもに質の高い幼児教育の機会を保障するために、どの施設においても大切にしたい幼児教育の方向性を共有できるよう、「あそびで育つ 輝くさいたまの子」を目指す子ども像として示しました。



※この指針においては、幼児期の教育を「幼児教育」と表現しています。実際の子どもへの関わり等については、現場での用法を尊重し、「保育」と表現します。
 ※幼稚園・保育所等において、子どもの保育に携わっている幼稚園教諭、保育教諭、保育士及び看護師を総称し、「保育者」と表現します。

◆4つの視点について◆

「一人ひとりが価値ある存在として尊ばれる」保育を行うために「子どもの姿」に着目し、大切にしたい4つの視点を示しました。「ゆったり：ありのままの自分で安心して生活する」「すくすく：健やかな体で安全・快適に生活する」「わくわく：主体的・自発的に活動する」「のびのび：自分なりの表現で人やものと関わる」の4つです。これらは、さいたま市の幼児教育が目指す子ども像「あそびで育つ 輝くさいたまの子」につながる子どもの姿であり、保育者が子どもの育ちを支える上で大切な視点となります。

「あそびで育つ 輝くさいたまの子」 4つの視点	
ゆったり	ありのままの自分で安心して生活する
すくすく	健やかな体で安全・快適に生活する
わくわく	主体的・自発的に活動する
のびのび	自分なりの表現で人やものと関わる

◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」◆

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園・保育所等で乳児期・幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。実際の幼児教育では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて行われるものではないこと、全ての子どもに同じようにみられるものではないことに十分配慮する必要があります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	
健康な心と体	園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説より引用し、整合性を図るため、一部文言を変えています。